



第 24 回 聖路加看護学会学術大会 大会長

林 直子 (聖路加看護大学大学院教授)

総会報告

- 現在会員数 629 名
(2019/8/31 現在)
- 2018 年度会費納入率
69.4% ! (2017 年度 67.1%
より改善しました!)
- 8 月 3 日メーリングリスト
運用開始しました!
- 将来構想委員会が開催
されました。詳細は次号
にて報告予定です。

■第 24 回 聖路加看護学会学術大会を終えて

日中はまだ夏を思わせる日差しの残る 2019 年 9 月 14 日(土)、第 24 回聖路加看護学会学術大会を開催いたしました。当日は全国各地から 161 名の方にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。これもひとえに企画、実行委員の皆様、演者・座長の諸先生方、会場ボランティアの皆様、そしてご参加くださった皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本大会は「Implementation Research 実践の場に根差した新たな研究方略の探求」をメインテーマに、本邦の看護の世界に新たな風を吹き込んだ Implementation Research (実装研究) について、皆さまと共に考え、意見交換いたしました。大会長講演では過去 30 年における看護研究の流れと、看護における実装研究の意義、さらにがん看護分野における実装研究の可能性についてお話しし、特別講演では島津太一先生にエビデンスの普及とそれを実臨床、実社会に適用させる(実装させる)ための「普及と実装研究」について具体的な例と共にご講演いただきました。また教育講演では日本初の DNP コースの立ち上げの経緯について萱間真美先生にご解説いただき、シンポジウムでは現在実装研究に取り組んでいる DNP コース院生によるプレゼンテーションとディスカッションが行われました。さらにランチタイムには、鈴木美穂先生に看護学研究法の今とこれからのについてミニ講座を開催していただきました。一般演題の会場では、各々活発な議論が展開されていました。

今後の看護研究の転換点となることを予見しつつ閉幕した本大会が、参加された皆様の新たな知見の会得並びに交流の場となりましたならば幸いです。



名誉会員になられた近藤潤子先生のご挨拶から感じ取られた、先輩方の研究業績への敬意をこめ、Implementation Research とははじめとして講演されました。

(記事担当: 宮原)



◆特別講演

普及と実装科学研究とは何か

国立がん研究センター
社会と健康研究センター予防研究部室長
島津 太一

EBM が浸透し、RCT やその系統的レビュー、メタアナリシスなどにより有効性が示された介入 (EBI) は実施されて然るべきであるが、それが常識化するには、そこに関わる人々の認識や行動を変容させる必要があります。その変容を起こさせるための研究が普及と実装研究 (Dissemination and Implementation Research) であると理解しました。

実装戦略には、場の文脈に合わせる事が重要であると話され、「良いとわかっていることを実践する」という極めて明快な論理も含め、非常に人間味のある研究分野だと感じ、その必要性も実感しました。

(記事担当: 宮原)

◆教育講演

聖路加国際大学の DNP コース立ち上げの経緯と展望

聖路加国際大学 萱間 真美

DNP (Doctor of Nursing Practice) コースの立ち上げは、博士後期課程に従来の研究者コースと高度実践家のためのコースを作ろうという構想から出発しました。十分な研究結果がないことについて新たな研究を行い、新たな知識を得るのが Ph.D であり、十分な研究結果が揃っていることについて、実践への応用を試行するのが DNP であること、そして、QI (Quality Improvement) 活動を通じてエビデンスを現場に実装するという DNP の活動が Implementation Research であるとのお話がありました。

「看護の活動と Implementation Research は実はすごく近くにあった。よいことを病棟看護師が使ってくれなければ意味がない」という萱間先生のお言葉が強く印象に残りました。

(記事担当: 佐々木)



◆シンポジウム

学習者からみた聖路加国際大学 DNP コースにおける Implementation Research

座長 奥 裕美 (聖路加国際大学)

Implementation Research の学習過程から導かれた専門看護師としての成長

小山 美樹 (がん看護・緩和ケア分野)

厚生労働省の看護系技官に対する Implementation Research

関根小乃枝 (看護管理学分野)

自施設の一つのシステム改善の試み

柳村 直子 (ウイメンズヘルス・助産学分野)



聖路加国際大学院の DNP コースでの学びを発表者それぞれの専門分野における自身の研究について発表されました。小山氏からは組織における CNS としての経験が DNP や Implementation Research の契機となったこと、関根氏からは、看護系技官の能力開発における Implementation Research の紹介、柳村氏からは助産師として自施設で取り組んでいる研究について紹介されました。発表・ディスカッションを通し Implementation Research の実際と理解を深める機会となりました。

(記事担当: 中田)



◆ランチタイム・ミニ講座

看護学研究法の今、そしてこれから

聖路加国際大学 鈴木 美穂

臨床医学研究における変遷を踏まえ、様々な事例を加えながら看護学研究法の「今」をお話しくださいました。看護学の発展には看護学における研究方法の構築が欠かせません。多様化するリサーチクエスションに対応するために、今後様々な研究方法の開発が望まれています。「研究は使われなければ、使われるようにしなければ知にならない」という鈴木先生のお言葉が印象的でした。

(記事担当: 松尾)

◆一般演題

口演1、2ともに3題ずつの演題発表がありました。聖路加国際大学の縄秀志先生がご発表された『「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに対する看護師の認識』では、「快」をもたらす日々の看護援助について再認識する機会となりました。

また、それぞれの分野の第一線で活躍される演者の方々によるご発表と質疑応答はどれも熱いものがありました。

(記事担当: 松尾)



■卒業研究

4名の方が卒業研究を発表しました。3名の学生は看護師や保健師に対するインタビューによる質的研究、1名は看護教育におけるリーダーシップに関する調査研究でした。

卒業研究という時間や対象者などの制約のある中での研究成果でしたが、看護の現状を適切に見据えた未来の看護を創る第一歩を感じる発表でした。発表者の今後への期待と活躍の予感を感じさせるセッションとなりました。

(記事担当: 中田)

◆学術交流集会 「惹きつけられる組織とは～看護職が導く魅力的な組織～」



オフィス KATSUHARA 代表 勝原 裕美子

聖路加国際病院 副院長・看護部長 鈴木 千晴

「看護職を惹きつけ、高い定着率を維持している魅力的な病院」として、ANCC(米国看護認定センター)が行っているマグネット認証を目指したお二人から、看護職が惹きつけられる組織について話を伺いました。

お二人とも、スタッフナースとの話し合いの場を作り、承認や意見を看護部の運営に活かす機会にしながら、認証に向けた活動を推進しておられました。マグネット認証を目指したことで、患者参画や看護の可視化が推進されたこと、また、「マグネットは日本を変える!」という力強いお言葉が印象的でした。

(記事担当: 佐々木)



◆新名誉会員のご紹介

天使大学大学院助産研究科客員教授

聖路加国際大学名誉教授

札幌医科大学名誉教授

近藤 潤子先生

【名誉会員になられた近藤潤子先生からのメッセージ】

1960年代 日本には看護系大学は6校のみで、大学院はありませんでした。このころ、看護学を発展させるため、また社会の看護への理解を深めるために看護に研究が必要という呼び声が高かった。1960年代の研究は看護業務に関するタイムスタディ、ワークサンプリング、症例研究等が大部分を占めていました。

1980年看護学修士課程、1989年の博士課程の開設、さらに1981年日本看護科学学会、1985年日本助産学会の設立に伴い研究法も多様化し、量的研究に質的研究が加わり看護に新たな知見を加え発展してきました。

海外の看護理論、研究方法などが大学院の学習に取り入れられ、公開講座等でも学習の機会が広がりました、

このたびの学術大会では実装研究が紹介されました。ITが広く利用されるようになったことも加わり、半世紀、約50年を振り返ってみれば、着実に前進していると感じます。

聖路加看護学会が、実践を大切にする伝統の上に看護学領域のリーダーとして看護領域の研究を推し進めてくださることを期待を込めて祈念しています。 名誉会員 近藤潤子

【祝！プリンセス・シーナカリン賞受賞】

10月7日、近藤潤子先生は、プリンセス・シーナカリン賞を受賞されました。

プリンセス・シーナカリン賞は、タイ王国のプリセス・シーナカリンの生誕100年を記念し、看護や助産などの進歩発展に寄与した人に贈られる国際的賞で、日本人では3人目の受賞となります。

おめでとうございます。（記事担当：宮原）

◆“第3回高度看護実践家のための臨床研究セミナー”報告

高度実践看護開発検討委員会

2019年9月14日(土)、聖路加国際大学(本館)にて「第3回高度看護実践家のための臨床研究セミナー」を開催しました。今回のセミナーは研究計画書の作成を目指す個別相談会でした。

参加者から現在検討中の研究計画についてご提示いただき、個別相談に応じるという方法で実施しました。実施後の感想として「個別に対応してもらえて詳細に内容を聞くことができた」「研究の具体的な方向性が見えた」「具体的アドバイスももらって、やれそうな気持ちになった」「実際に研究を行なっている研究者と話ができる機会は大事」といったフィードバックをいただきました。また「自分のレベルに合わせた内容で相談をすすめてもらった」「方向性が明確になった」などのご意見もいただき、個別相談会という方法での研究促進の必要性を感じました。今後の要望として、継続的な研究計画相談会の実施、統計分析に関する相談会などへの期待が寄せられました。

本委員会では3回にわたり臨床研究セミナーを実施してきましたが、今回の参加者は3名であり、講演会への参加に比べ個別相談会への参加はハードルが高いという状況も見えてきました。高度実践家の研究活動をどのような形で促進するか、学会発表や、研究成果の実践適用につなげていくためにできることは何か、今後も検討が必要だと思えます。

「高度看護実践家のための臨床研究セミナー」にご参加いただいた皆様の研究が進んでいきますことを、委員一同心から期待いたしております。

(担当理事：野末聖香、委員：矢ヶ崎香、大久保暢子、中島千春、小川真紀)



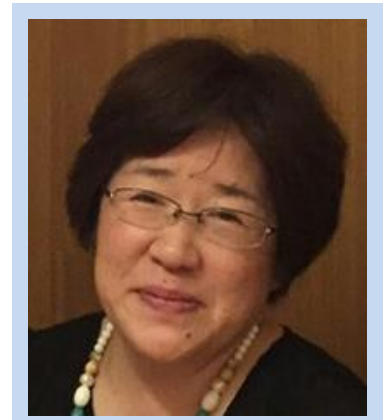
- ▶ 発行:2019年10月29日
- ▶ 編集:宮原 晴子 中田 諭
佐々木菜名代 松尾 尚美
- ▶ 連絡先:
聖路加看護学会事務局
〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学内
tel 03-3543-6391(代表)
fax 03-5565-1626(代表)
http://slnr.umin.jp/

ニュースレター発行や
様々な情報をメールリストで
お伝えします！
未登録の方、再登録の方は
是非ご連絡を!!

第25回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

第25回聖路加看護学会学術大会は、2020年10月3日(土)に開催されます。皆様、今からスケジュールにご記入いただき、是非、参加を予定してください。

- ▶ 会期:2020年10月3日(土)
(注!オリンピックイヤーのため10月開催です)
- ▶ 会場:聖路加国際大学
- ▶ 大会長:平林 優子(信州大学医学部保健学科)
- ▶ テーマ:
すべてのひとの発達に関わる看護
-その人らしい豊かな経験を支える-



◆庶務

昨年の秋のニュースレターで「2年間よろしくお願いたします」と書いたばかりな気がするのですが、早いもので残りの任期があと1年を切りました。任期満了に伴い、評議員選挙が行われています。また評議員選挙に引き続き、年末には理事・監事選挙が実施されます。庶務では、正しく、予定通りに選挙が行われるよう選挙管理委員会に協力しています。

さて、2019年9月現在、本学会の会員数は630名です。広報委員会によりメールリストの使用が開始されましたが、アドレス不明で送信できない方もいらっしゃいます。届いていない方は、ご登録のメールアドレスをご確認いただき、学会事務局までご連絡ください。ご勤務先や住所等の変更についても同様にご連絡くださいますよう、お願いいたします。

(学会事務局:slnr@slcn.ac.jp)。

(担当理事 小林 京子、奥 裕美)

◆会計

今年度(2019年)の会費納入がお済でない方は、下記口座にお振込みをお願いいたします。

振込先:郵便振替口座

口座番号:00100-8-670371

加入者名:一般社団法人 聖路加看護学会

今期会計年度2019年4月1日より年会費を10,000円に値上げさせていただき、入会金は廃止となっています。詳細につきましては、学会ホームページに掲載しております「年会費値上げについてのお知らせ」をご一読ください。ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。聖路加看護学会会員の皆様へ本学会に関連する情報をタイムリーにお届けするために、広報委員会が学会メールリストを作成しました。ぜひご覧ください。

(担当理事 中村めぐみ、朝川久美子)

◆編集後記

聖路加看護学会会員の皆様へ本学会に関連する情報をタイムリーにお届けするために、学会メールリストを開設しました。ぜひご活用いただき、運用に関してのご意見・ご要望も承りますので、学会事務局までご連絡ください。ニュースレターを年4回発行することになり、2年目となりました。学会活動へのご理解とご協力をいただけますよう、皆さまに有益な情報をお届けすることを念頭に活動しますので、よろしくお願い申し上げます。

台風等の自然災害による被災をされた皆さまが1日も早く日常生活に戻れますことを願っております。

(広報委員会 宮原 晴子 中田 諭 佐々木菜名代 松尾 尚美)

